

## 実現方策の優先順位の決定方法について

## ■実現方策の優先度の決定方法

実現方策の優先度については、「利用者（水道利用者及び受水団体）のニーズ」と「実現方策の重要度・緊急度」を相対評価で4段階（高い～低い：A～D）に分類し、その評価をもとに、図1のとおり4段階（高い～低い：A～D）で相対的な優先度を決定する。

利用者 （水道利用者及び受水団体） のニーズ	高い A	C	B	B	高い A
	B	C	C	B	高い A
	C	低い D	C	B	B
	D 低い	低い D	C	C	B
		← 低い D	C	B	A 高い →
		実現方策の重要度・緊急度			

図1 優先度の決定方法

## ①「利用者（水道利用者及び受水団体）のニーズ」の評価

利用者（水道利用者及び受水団体）のニーズについては、利用者のニーズを50点、受水団体のニーズを50点として、県政世論調査及び受水団体アンケートの結果を基に、図2のとおり各項目の配点を定め、実現方策の目標との関係に基づき、関係する項目の配点を合計し、実現方策の点数とする。

この点数順で実現方策数を4等分し、点数の上位からニーズを、「高い：A」～「低い：D」とする。

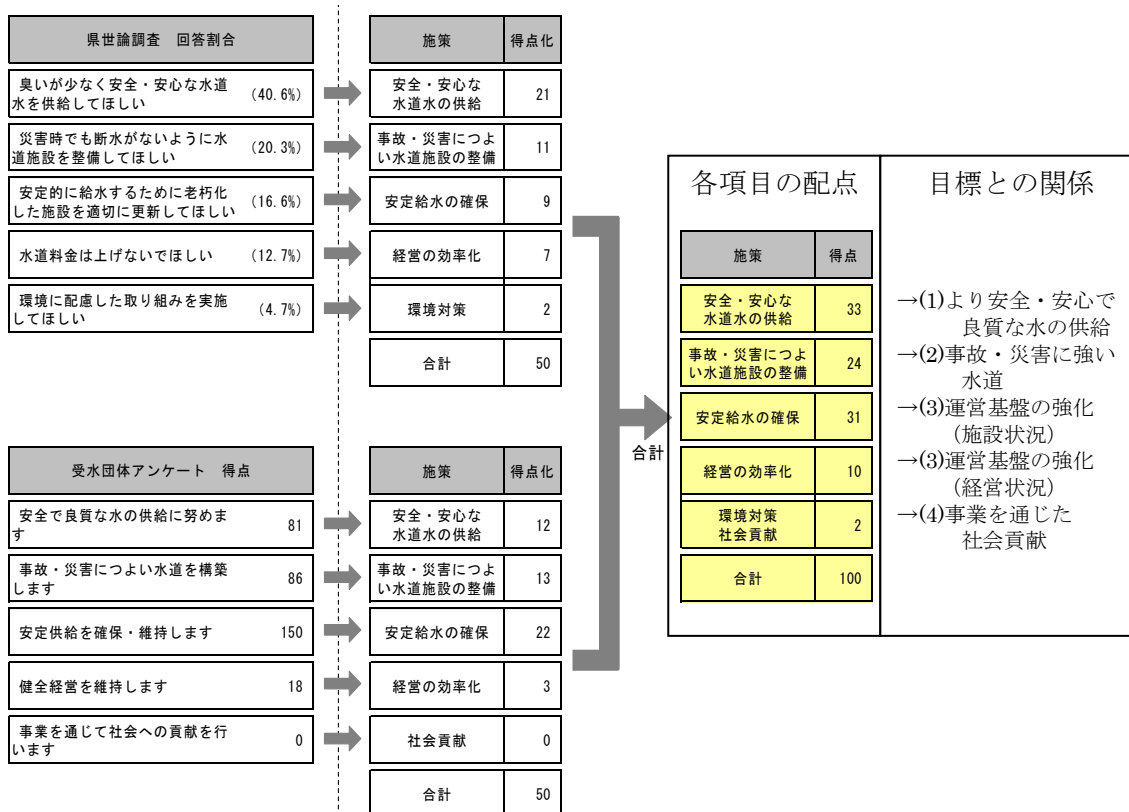


図2 「利用者（水道利用者及び受水団体）のニーズ」の点数化の例

②「実現方策の重要度・緊急度」の評価

実現方策の重要度・緊急度については、重要度を2段階（高い、低い）、緊急度を3段階（早期に実施、計画期間内に実施、将来的に実施）で、相対評価したうえで、政策的な判断などにより、実現方策の重要度・緊急度を調整し、最終的に図3のとおり、4段階（A～D）で評価する。

重要度	高い	やや高い：B	やや高い：B	高い：A
	低い	低い：D	やや低い：C	やや低い：C
		将来的に実施	計画期間内に実施	早期に実施
		緊急度		

※早期に実施：早期に着手し、できる限り早期の完了を目指すもの

目標達成には時間を要する場合も、早期に着手しできる限り早期の完了を目指すもの

計画期間内に実施：事業に着手し、計画期間内で達成を目指すもの

目標達成には時間を要する場合も、計画期間内に着手し目標達成に向け取組を実施するもの。

将来的に実施：計画期間中に、将来的な実施に向けた検討に着手するもの。

計画期間中に事業に着手はするが、特に緊急性はなく、計画期間より先の将来の完了でよいもの。